

スタートアップ深層 ～ 世界が注目する理由に迫る ～



AUGMIND

**3Dコンテンツの送受信
プラットフォームを提供**



**屋内での正確な現在地把握
を可能にする技術を開発**

毎年 1000 社近いスタートアップ企業が誕生するイスラエル。革新的な技術やプロダクトを生み出し、世界から注目を集めているスタートアップの中から、今回、Augmind と infuse Location の 2 社に彼らの創業過程や事業戦略、今後の展望、さらには日本市場への思いや本音を聞いた。

1.

Augmind

Mr. Yuval Gloz

COO & Co-Founder

デバイス間でのデータ移動における問題を解決

現在、多くの企業が技術開発を行う上で 3D コンテンツを利用している。しかしデータを電子端末の間で移動させるには問題点が多くある。例として、システムが複雑な故に時間やコストがかかる点や、スマートフォンなど小さな端末に対応できる 3D コンテンツが少なく、データを移動した際のクオリティの低下が挙げられる。それらの問題を解決するべく Augmind は設立された。

Augmind の CEO である Yuval Gloz 氏に取材を行った。

ニーズや問題点を調査し技術の向上に挑戦

以前 Gloz 氏は自身で立ち上げた会社「Wise Toys Ltd.」にてエンターテインメント用の 3D コンテンツを企業に提供していたが、その技術のクオリティやリアリティにあまり自信を持っていなかった。一方で、3D で様々な商品を再現できる AR/VR/MR に大きな可能性を感じていた。

そして約 10 年前、現在の Augmind の CEO である Ran Kern 氏と共に Augmind を立ち上げ、開発段階で多くの大企業からニーズや問題点を聞き込み、それらと向き合う中で最大の問題点である「データの移動にかかる時間やコスト」に気付いたという。

3D コンテンツを移動させるためのプラットフォームを提供

Augmind は様々な電子端末の間で行われる 3D コンテンツの移動をサポートしている。必要なデータの変換にかかる作業をシンプルにする事で、クオリティを保ち低コストで素早く 3D コンテンツを移動させる事に成功した。

現在世界中のスタジオに同社のベータ版技術を提供しており、多くの企業から良いフィードバックを受けている。その内 1社は、「今までパソコンから VR ゴーグルにデータを移動させるには約 1 年かかったが、Augmind の技術を利用したところそれが数日で可能になった」という。

誰もがアイデアを 3D で再現できる時代に

Gloz 氏は今後、より多くの会社と戦力的パートナーシップを結んでいきたいという。Augmind が大企業のニーズに応えてきた経験や、同社の技術はゲーム、教育、医療、商品販売、広告、工業など多くの産業で活用できる点から、多分野の企業との提携が可能だ。現在は開発者向けに技術を提供しているが、将来は誰もが自分のアイデアを 3D コンテンツで再現できるような技術を展開したいそうだ。

様々な分野で最先端の技術を展開する企業が日本には多く存在する事や、繊細な感覚を持つ日本人から洗練されたフィードバックを期待できる事から、世界市場の中でも特に日本市場には期待しているという。



Yuval Gloz 氏

CEO から日本企業に向けたメッセージ

「Society 5.0」を掲げる日本にとって Augmind の技術はデータ、デバイス、人々を繋ぐ上で大きく貢献できます。3D コンテンツを通して離れていた人や物を繋ぐ事が可能なため、これまでの会話、仕事、買い物などの環境は大きく向上するでしょう。

<https://www.augmind.me/>

“屋内版 Google マップ”ともいえる屋内測位技術を開発

現在、Google マップをはじめとするサービスにより、屋外において自分がどこにいるかは、誰でも正確に把握することができる。一方、ショッピングモールなどの屋内となると、そうはいかない。



そんな中で、infuse Location (以下: infuse) は、様々なセンサーを組み合わせることで屋内測位を可能にする技術を開発している。

同社 CEO の Oren Rosen 氏に取材を行った。

イスラエル空軍での経験を生かし、起業に至る

Rosen 氏は、テクニオン大学（イスラエル工科大学）で電気工学を修めた後、イスラエル空軍に6年間勤めた。空軍においては、UAV（無人航空機）部門のプロジェクトマネージャーを務め、航空機ナビゲーションの研究開発を行っていた。

この経験から測位技術に興味を持ち、起業に至ったと Rosen 氏は語った。

あらゆるセンサーの情報を組み合わせ、より詳細な位置の把握が可能に

屋外測位で用いられる GPS は、建造物により遮られてしまうため、屋内では有効に機能しない。そのため、屋内測位では、ビーコン（Bluetooth の信号を用いて情報を発信する端末）などを用いる「ハードウェアベース」の手法がとられている。

しかし、これらの技術を用いるためには、建物に新たにセンサーを設置する必要があるため、少なくとも数万ドルのコストがかかる上に、設置に数週間を要するという問題がある。

屋内測位にこのような問題がある中、infuse は、スマートフォンに内蔵されているセンサーの情報（スマートフォンには、GPS に加え、Wi-Fi や磁気センサー、慣性センサー等が内蔵されている）を組み合わせることで、新たなセンサーを設置することなく、より詳細な屋内測位を可能にする「ソフトウェアベース」の解決策を提供している。

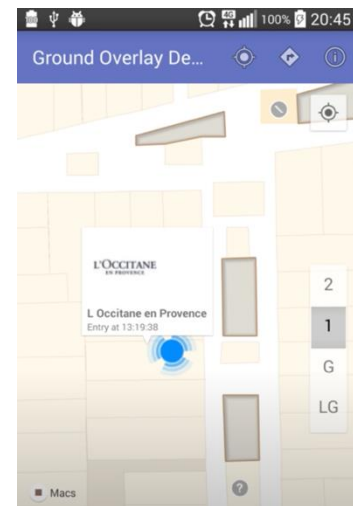


図 1: infuse が提供するソフトウェアのデモ画面（同社 HP より）

マーケティングや広告に応用可能

同社が提供する屋内測位技術を用いることで、ショッピングモール等における顧客の行動を、プライバシーを侵害することなく分析し、マーケティングに応用することができる。また、位置情報や経路に応じてプッシュ通知やクーポンを送信することもでき、広告にも応用が可能だ。

今後の展望

同社はすでに、リクルートテクノロジーズをはじめとする日本企業と継続的なコラボレーションを行っている。また、東京でのビジネスを強化することを目的としたアクセントリア日本法人による特別プログラムに参加することも決定し、日本市場への展開を加速させている。



Oren Rosen 氏

CEO から日本企業に向けたメッセージ

日本は infuse にとって重要な市場だと思います。日本は世界第2位のIoT市場であり、IoTや自動化に力を入れている経済、社会でもあります。我々のプロダクトは、スマートシティや Society 5.0 の取り組みに大きな価値をもたらすと信じています。

<https://www.infuse-location.com/>